

RENESAS TECHNICAL UPDATE

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 豊洲フォレシア
ルネサス エレクトロニクス株式会社

問合せ窓口 <http://japan.renesas.com/contact/>

E-mail: csc@renesas.com

製品分類	システム LSI	発行番号	TN-RIN-A012A/J	Rev.	第1版
題名	R-IN32M4-CL2 ユーザーズ・マニュアル CC-Link IE Field 編 (Rev.1.00→Rev1.01) 主な改定内容：誤記訂正、補足追加など		情報分類	技術情報	
適用製品	下記参照	対象ロット等	関連資料	R-IN32M4-CL2 ユーザーズ・マニュアル CC-Link IE Field 編 Rev.1.01 (R18UZ0041JJ0101)	
		全ロット			

R-IN32M4-CL2 ユーザーズ・マニュアル CC-Link IE Field 編 Rev.1.01 (R18UZ0041JJ0101) をリリースいたします。詳細については「2. 改定内容」を参照願います。※要注意マークがついている項目は、重要な項目ですので、ご確認をお願いします。

1 適用製品

Product Type	Model Marking	Product Code
R-IN32M4-CL2	R9J03G019GBG	R9J03G019GBG

2 改定内容

No	訂正箇所 (Rev1.00 見出し番号)	該当ページ (Rev1.00 番号)	内容
1	図 2.1 開発の工程例	9	誤記訂正
2	表 2.5 新規追加	13	補足
3	4.1 ユーザー・プログラム一覧	33	誤記訂正
4	図 4.1 メイン処理 フロー図	35	誤記訂正
5	図 4.11 LED 更新処理 フロー図	44	誤記訂正
6	表 4.5 MAC IP 部の MIB 情報一覧表	47	誤記訂正
7	図 4.17 Transient1 受信データ処理 フロー図 (1/4) ※要注意	51	誤記訂正
8	図 4.35 Transient1 要求フレーム作成処理 フロー図	73	誤記訂正
9	表 5.6 R_IN32_UNITINFO_T 一覧 (1/3) ※要注意	86	誤記訂正
10	5.3.1.4 gerR_IN32_Start	92	補足
11	表 5.15 ulCommand 一覧	127	誤記訂正

No.	V1.00		V1.01							
	ページ	記載内容	ページ	改訂内容						
1	9	<p>【2. 開発前の仕様検討と準備】</p> <p>[図 2.1 開発の工程例]</p> <p>リンクデバイスにシステム領域を定義する — 「2.7 リングデバイスの属性の割り当て検討」を参照</p> <p>Hold/Clear処理の実装検討 — 「2.6 Hold/Clear処理の実装検討」を参照</p> <p>R-IN32M4-CL2適用回路を作成する — 「3. R-IN32M4-CL2の機能」を参照</p> <p>ユーザプログラムを作成する — 「4. ユーザ・プログラムの作成」 「5. R-IN32M4-CL2ドライバの関数仕様」を参照</p> <p>CSP+を作成する — 「2.9 CSP+の作成準備」を参照</p> <p>コンFORMANCEテストを受験する — 「2.10 コンFORMANCE・テスト」を参照</p> <p>完了</p>	9	<p>【2. 開発前の仕様検討と準備】</p> <p>[図 2.1 開発の工程例]</p> <p>リンクデバイスにシステム領域を定義する — 「2.7 リングデバイスの属性の割り当て検討」を参照</p> <p>Hold/Clear処理の実装検討 — 「2.8 Hold/Clear処理の実装検討」を参照</p> <p>R-IN32M4-CL2適用回路を作成する — 「3. R-IN32M4-CL2の機能」を参照</p> <p>ユーザプログラムを作成する — 「4. ユーザ・プログラムの作成」 「5. R-IN32M4-CL2ドライバの関数仕様」を参照</p> <p>CSP+を作成する — 「2.9 CSP+の作成準備」を参照</p> <p>コンFORMANCEテストを受験する — 「2.10 コンFORMANCE・テスト」を参照</p> <p>完了</p>						
2	13	<p>【2.4 1000BASE-T コンプライアンス・テストモードの実装検討】</p>	13	<p>【2.4 1000BASE-T コンプライアンス・テストモードの実装検討】</p> <p>表 2.5 例：1000BASE-T コンプライアンス・テスト・モード切替え方法★</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手順</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)</td> <td>R-IN32M4-CL2適用製品の外部（H/Wスイッチなど）から、通常運転時のモード（オンラインモード）以外の「コンプライアンス・テスト・モード（オフラインモード）」に切り替えられる機能を実装する。</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>R-IN32M4-CL2適用製品の外部（H/Wスイッチなど）から、R-IN3M4-CL2ドライバ・インタフェース関数 gerR_IN32_IEETestの引数「MODE1～4」を指定できる処理を実装する。</td> </tr> </tbody> </table>	手順	内容	(1)	R-IN32M4-CL2適用製品の外部（H/Wスイッチなど）から、通常運転時のモード（オンラインモード）以外の「コンプライアンス・テスト・モード（オフラインモード）」に切り替えられる機能を実装する。	(2)	R-IN32M4-CL2適用製品の外部（H/Wスイッチなど）から、R-IN3M4-CL2ドライバ・インタフェース関数 gerR_IN32_IEETestの引数「MODE1～4」を指定できる処理を実装する。
手順	内容									
(1)	R-IN32M4-CL2適用製品の外部（H/Wスイッチなど）から、通常運転時のモード（オンラインモード）以外の「コンプライアンス・テスト・モード（オフラインモード）」に切り替えられる機能を実装する。									
(2)	R-IN32M4-CL2適用製品の外部（H/Wスイッチなど）から、R-IN3M4-CL2ドライバ・インタフェース関数 gerR_IN32_IEETestの引数「MODE1～4」を指定できる処理を実装する。									

No.	V1.00		V1.01	
	ページ	記載内容	ページ	改訂内容
3	33	<p>【4.1 ユーザ・プログラム一覧】</p> <p>「intelligent_device¥root¥Japanese¥sample」、または「¥remote_device¥root¥Japanese¥sample」フォルダ以下のユーザ・プログラムの一覧を示します。</p>	33	<p>【4.1 ユーザ・プログラム一覧】</p> <p>「¥cie_intelligent_device¥root¥Japanese¥sample」、または「¥cie_remote_device¥root¥Japanese¥sample」フォルダ以下のユーザ・プログラムの一覧を示します。</p>
4	35	<p>【4.2.1 メイン処理】</p> <p>[図 4.1 メイン処理 フロー図]</p>	35	<p>【4.2.1 メイン処理】</p> <p>[図 4.1 メイン処理 フロー図]</p> <p>「UserSetTransient_Request2」を「UserSetTransient2_Request」に修正</p>
5	44	<p>【4.2.11 LED 更新処理】</p> <p>[図 4.11 LED 更新処理 フロー図]</p>	44	<p>【4.2.11 LED 更新処理】</p> <p>[図 4.11 LED 更新処理 フロー図]</p>

No.	V1.00		V1.01	
	ページ	記載内容	ページ	改訂内容
6	47	<p>【4.2.13(2) MAC IP 部の MIB 情報一覧】 [表 4.5 MAC IP 部の MIB 情報一覧表]</p> <p>No.9 「内容」欄 GMII の受信データエラーを検出した場合 (RECV_*_ERR=1)、カウントアップする。アイドル中 (RECV_*_DV =1) に RECV_*_ERR が複数回 1 となっても、カウントは 1 回になる。</p>	47	<p>【4.2.13(2) MAC IP 部の MIB 情報一覧】 [表 4.5 MAC IP 部の MIB 情報一覧表]</p> <p>No.9 「内容」欄 GMII の受信データエラーを検出した場合 (RECV_*_ERR=1 注)、カウントアップする。アイドル中 (RECV_*_DV =1 注) に RECV_*_ERR 注 が複数回 1 となっても、カウントは 1 回になる。</p>
7	51	<p>【4.3.3 Transient1 受信データ処理】 [図 4.17 Transient1 受信データ処理 フロー図(1/4)]</p>	51	<p>【4.3.3 Transient1 受信データ処理】 [図 4.17 Transient1 受信データ処理 フロー図(1/4)]</p> <p>関数表記の改行位置を変更 "受信フレーム分割あり"後の"組立フラグを OFF"に修正</p>
8	73	<p>【4.3.17 Transient1 要求フレーム作成処理】 [図 4.35 Transient1 要求フレーム作成処理 フロー図]</p> <p>引数 ①Transient1要求設定 ②トランジェント送信データ ③送信フレームのアドレス ④送信フレームのサイズ</p>	73	<p>【4.3.17 Transient1 要求フレーム作成処理】 [図 4.35 Transient1 要求フレーム作成処理 フロー図]</p> <p>引数 ①Transient1要求設定 ②トランジェント送信データ ③送信フレームのアドレス ④送信フレームのサイズ</p> <p>関数名の誤記(末尾に"t"追加)修正</p>

No.	V1.00		V1.01	
	ページ	記載内容	ページ	改訂内容
9	86	<p>【5.3.1(2) gerR_IN32_Initialize】 [表 5.6 R_IN32_UNITINFO_T 一覧(1/3)]</p> <p>No.2 自局が通信可能な RWw のサイズ(ワード)を1バイト★単位で設定します。インテリジェントデバイス局の場合、256バイト★が最大です。リモートデバイス局の場合、64ワードが最大です。</p> <p>No.3 自局が通信可能な RWr のサイズ(ワード)を1バイト単位で設定します。インテリジェントデバイス局の場合、256バイトが最大です。リモートデバイス局の場合、16バイトが最大です。</p>	86	<p>【5.3.1(2) gerR_IN32_Initialize】 [表 5.6 R_IN32_UNITINFO_T 一覧(1/3)]</p> <p>No.2 自局が通信可能な RWw のサイズ(ワード)を2ワード★単位で設定します。インテリジェントデバイス局の場合、1024ワード★が最大です。リモートデバイス局の場合、64ワードが最大です。</p> <p>No.3 自局が通信可能な RX★のサイズ(ワード)を1バイト単位で設定します。インテリジェントデバイス局の場合、256バイトが最大です。リモートデバイス局の場合、16バイトが最大です。</p>
10	92	<p>【5.3.1.4 gerR_IN32_Start】</p>	92	<p>【5.3.1(4) gerR_IN32_Start】</p> <p>注意 R-IN32M4-CL2にFatalエラーが発生した場合、本関数よりユーザ作成の gR_IN32_CallbackFatalError を呼び出しますので、エラーコードに対応したエラー処理を実行してください。 「注意」を追加</p>
11	127	<p>【5.5.2 gerR_IN32_CallbackCommandFromMaster】 [表 5.15 ulCommand 一覧]</p> <p>No.7 1b: 指定サイズ不正あり 0b: 指定サイズ不正あり</p>	127	<p>【5.5.2 gerR_IN32_CallbackCommandFromMaster】 [表 5.15 ulCommand 一覧]</p> <p>No.7 1b: 指定サイズ不正あり 0b: 指定サイズ不正なし★</p>